

*11 衣料害虫の研究（第1報）衣蛾の幼虫期における成長について

奈良女子大学 辻井 康子

衣料害虫による蝕害研究を行う場合、正確な結果を得る為には生理的条件の揃った虫を使用する事が望ましい。その為には、1) 令期を揃える、2) 虫の体の大きさを揃える、2) 経過日数を揃える等の方法が考えられる。

私は衣蛾について、一定条件（30°C, 80 % R.H）のもとで飼育した幼虫の発育にともなう脱皮回数、頭巾についての成長をしらべ、上述の方法について検討してみた。

集合飼育の幼虫 500 頭についてその脱皮殻の頭巾を測定したが、その結果は頭巾の頻度分布は連続して判然と令期を区別出来なかった。

そこで1頭飼育を行った結果は、衣蛾幼虫には、4, 5, 6, 7 回脱皮するものがあり、その発育所要日数、最終令の大きさ、成長の速度等が同一でない事がわかった。その成長曲線を詳しく吟味すると、4, 5 回脱皮と、6, 7 回脱皮の2型に分けられるのではないかと推定された。この2型は1令及び2令迄は差はなく3令以後の脱皮、成長の様相に特徴が認められる。

成長曲線については、2, 3 の成長式について検討を行った。